

2021 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2021 年 9 月 9 日（木）15:20 – 16:50

場 所：オンラインにより実施

出席者：

【学会連合理事】

応用統計学会	富澤貞男，松浦正明
日本計算機統計学会	小木しのぶ，山本義郎
日本計量生物学会	松井茂之，寒水孝司
日本行動計量学会	狩野 裕，岩崎 学
日本統計学会	樋口知之 (理事長)，大森裕浩
日本分類学会	宿久 洋，富田 誠

【連合大会実行委員会】 西井龍映 (2021)，小森 理 (2022)

【連合大会運営委員会】 久保田貴文 (2021)，飯塚誠也 (2022)

【連合大会プログラム委員会】 坂本 亘 (2021)，黒田正博 (2022)

【JJSD 編集委員長】 青嶋 誠

幹事 阿部貴行，大草孝介，本橋永至

開会に先立ち、樋口理事長より、小木理事を学会連合副理事長にしたい旨の提案があり了承された。

組織委員会・審議事項

1. 2022 年度連合大会各委員長について

- ・ 実行委員長に小森 理氏 (成蹊大学)，運営委員長に飯塚誠也氏 (岡山大学)，プログラム委員長に黒田正博氏 (岡山理科大学) とすることが確認された。なお、2022 年度統計関連学会連合大会の開催場所および実行委員長については、事前に行われた連合理事会のメール審議にて 7 月 30 日に承認されている点を付記する。
- ・ 運営副委員長およびプログラム副委員長については、各委員長と協議しながら、次回 12 月の連合理事会・組織委員会までに候補を選定する。

2. 2022 年度連合大会開催日時・場所、ならびに運営方針について

- ・ 小森 2022 年度実行委員長より、成蹊大学 (東京都武蔵野市) にて、9 月 4 日 (日) をチュートリアル・市民講演，9 月 5 日 (月) ~ 9 月 8 日 (木) を本大会としたい旨が提案され、承認された。なお、開催方法については、来年の新型コロナウイルスの状況を鑑み、適切な時期に判断する旨が報告された。
- ・ 開催方法によるが、一般セッションでも参加者数が 200 名を超えるもの (日本計量生物学会など) もあるため、状況に応じて各会場の大きさを適切に決定して頂きたい旨の議論が行われた。

組織委員会・報告事項

1. 2021 年度連合大会報告

- (1) 西井実行委員長より、今年もオンラインによる連合大会の開催であったが、特に大きな問題はなく、滞りなく終了した旨の報告があった。次の点が報告された。
- ・事務局でのセッション管理を有線 LAN で行う際、LAN ケーブルのバックアップが有用であった。
 - ・座長がセッションに直前に入るケースが数件みられた。遅くとも 10 分前には接続して頂くように座長に周知した方がよい。
 - ・本大会に向けた Zoom への接続試験を 9/4 に行ったが、Zoom 契約の都合上 Zoom のアクセス先の提供が直前であった。もう少し早ければ余裕をもった対応ができた。久保田運営委員長より、Zoom の契約を 2 ヶ月とするのも一案であるとの指摘があった。
 - ・2022 年度連合大会が仮にハイブリッド開催の場合、可能な状況であれば、学术交流できるような場所を設けられれば学術的にも有益だと感じた。
- (2) 坂本プログラム委員長より、以下の報告があった。
- ・チュートリアルセッション、市民講演会およびプレナリーセッションの登録者数は、それぞれ 383 名、560 名および 295 名であった。
 - ・一般セッションは 32（発表数：167）、企画セッション（デモセッションを除く）は 22（発表数：84）、コンペセッションは 6（発表数：27）、プレナリーセッション 1（発表数：1）、特別企画セッション 1（発表数：1）であった。
 - ・昨年に行った委託業者の変更により、本年もプログラム委員の手作業を大きく軽減できた。
 - ・完全オンライン開催のため、事前支払いの参加者には講演報告集を事前郵送した。
 - ・コンペセッションへの申込みの中に参加資格のない申し込みが 6 件もあった。申込み時まで統計関連学会連合の 6 学会いずれかへの入会が条件であり、周知が必要である。
- (3) 久保田運営委員長より、以下の報告があった。
- ・オンライン開催となったが、大きな技術的なトラブルもなく無事に終えた。
 - ・Zoom を用いたため、参加者数を容易に把握できた。登録者数 808 名、招待者 43 名の合計 851 名の参加者数であった。
 - ・直前申込み分について、チュートリアルと本大会ごとに分けて手動でメール送信する必要が生じた。
 - ・協賛では、ブース展示はなくなったが、セッション切り替え時に映写により協賛をして頂いた。映写ごとに運営委員とアルバイトを配置し技術的なトラブルがないことを確認した。
 - ・講演者（招待および一般）の中で大会への参加登録をしていないケースが数件みられた。周知が必要である。
 - ・今年度はオンライン懇親会を試験的に開催し、参加者間で有益な意見交換を行うことができた。
 - ・オンライン開催においても、現地開催と同様、Zoom 画像の録画は禁止されている点を参加者に周知する必要がある。

本年も 2 年連続で完全オンラインによる連合大会となり、現地のオンライン事務局に大きな負荷が

かかった。運営に携わった3委員長・副委員長, 実行委員会ならびに各委員会委員の貢献に対して, 組織委員会全体から謝意が述べられた。

連合理事会・審議事項

1. 統計質保証推進協会からの業務委託

樋口理事長より, 一昨年に続き本年度は, 統計質保証推進協会と統計関連学会連合の間で契約が締結され, 60万円が協会から連合に支払われ, それを新規事業の原資にしたい旨が提案され承認された。

2. 2023年度連合大会の開催場所

- ・ 2023年度の連合大会の開催地(および実行委員長)について意見交換が行われ, 提案がある理事は樋口理事長に連絡するよう周知された。候補者への打診は樋口理事長から行う。
- ・ 次回の理事会・組織委員会は, 日程調整の上, 12月中旬~下旬に開催する。

3. その他

- ・ 樋口理事長より, 10月中を目途に, 各学会から連合大会運営委員およびプログラム委員を選出頂きたい旨の依頼があった。

連合理事会・報告事項

1. JJSDについて

青嶋編集委員長より, JJSDの論文投稿, 査読・出版ならびに特集の企画について最新の情報が共有された。初回投稿から初回査読結果連絡までの時間短縮を図りたい旨が連絡された。IF獲得に向けた活動について, 次の2点の報告があった。

- ・ JJSDがESCI(Emerging Sources Citation Index)およびScopusに採択された。これはIF取得に向けた重要な成果である。Scopusへの掲載によりCiteScore(雑誌の評価指標の1つ)を獲得し, Web of ScienceのESCIへの登録によりIF取得の前提条件を満たしたことになる。今後は, 被引用数を増加させることが重要となる。
- ・ JJSDの編集委員会における女性の比率を高めたい。各学会のcoordinating editorから女性の編集委員会委員候補を青嶋編集委員長に推薦頂きたい旨の提案があり, 了承された。

2. 共催・協賛・後援

樋口理事長より, 前回理事会から本日まで, 次の事業・会議に後援・協賛したことが報告された。

- ・ IASC-ARS2022(同志社大学, 2022年2/21-24)後援(2021.04.06)
- ・ 数学・数理学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会2021 日本数学会, 日本応用数学会, 統計関連学会連合 主催(経産省, 文科省, 経団連への後援依頼への対応)(2021.07.06)

3. 統計関連学会連合から6学会への広報メールの送付依頼

樋口理事長より, 統計関連学会連合への広報依頼などを6学会にメール配信依頼する正式なスキームを構築した旨が報告された。まず, 外部から受けた広報依頼などの情報を幹事が必要に応じて形式を整

え，連合事務局に依頼し，連合事務局から6学会の広報メール（事務局に登録済み）へ広報依頼を行う。

次回連合大会組織委員会及び統計関連学会連合理事会：

2021年12月中旬～下旬にオンラインで開催予定